

平成23年度知多半島圏域地域医療連携検討ワーキングの状況報告

項目	現 状	今後の方向性	提言・要望	
救急医療	【外来救急医療体制】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> H22 時間外患者割合 (病院/休日診/在宅当番) 知多半島圏域 (73.7%/2.8%/23.5%) 県平均 (76.1%/15.9%/8.0%) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区医師会が市立半田病院の外来施設を利用した一時救急の定点診療を実施(週2回)している。 ・知多厚生病院の外来を活用して在宅当番の一部を実施している。 ・圏域内の地区医師会及び病院長に対し、第一次救急医療体制(定点化)に関するアンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当取組に参加する開業医の増加を検討する。 ・知多厚生病院での在宅当番を実施する開業医の増加を検討する。 ・知多半島全体で、定点化の推進に向けて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会の中で、定点化についての議論を深め、意思統一を図る。 ・定点化に向けて、関係者が協議をする場を設ける。 ・参考となる他地域の実態調査を行う。
	【入院救急医療体制】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> H22 救急搬送圏域内完結率 知多半島圏域 75.0% 県平均 88.5% </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち小児センターにおいて土日祝日の小児救急医療の提供を開始(平成22年度～)している。 ・市立半田病院では2年前から心臓血管外科医の常勤医が不在であるため大学からの非常勤医師で対応をしているが、医療供給体制を補完するために大学及び県に対し、医師派遣を要請している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち小児センターにPICUを整備し、県全体の3次救急医療への対応をする。 ・救急救命センターが常に重症患者の受入ができるよう、医師確保について有識者会議へ要請する。 	
	【救急医療の適正利用】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> H22 救急搬送件数のうち軽症患者 知多半島圏域 51.0% 県全体 55.2% </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療に適切にかかることができるよう住民啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽症患者が救急医療を利用することのないよう、特に、小児の保護者に対し、適正受診を促す。 	
周産期医療	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> H22 母体及び新生児搬送の圏域内完結率 母体： 知多半島圏域 25.0% 県平均 72.8% 新生児： 知多半島圏域 36.4% 県平均 69.5% </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・母胎搬送、新生児搬送ともに圏域内完結率が低い。 ・知多市民病院及び常滑市民病院が分娩対応を休止している。 ・市立半田病院の産科医が今年度10月から5名→4名へ減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療圏として、地域周産期母子医療センターへの医師派遣について有識者会議へ要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者会議及び大学間協議会での協議を依頼。